アンテロープ Eclipse384

¥1,100,000

●デジタル入力:同軸2系統(RCA)、バランス3系統(XLR)、光2系統(TOS)●アナログ入力:バランス3系統(XLR／TRS)●アナログ出力:バランス2系統(XLR)●デジタル出力:同軸1系統(RCA)、バランス4系統(XLR)、光1系統(TOS)●マスタークロック入力:同軸1系統(BNC・10MHz)●ワードクロック入力:同軸1系統(BNC・44.1kHz～384kHz)●ワードクロック出力:同軸4系統(BNC・44.1kHz～384kHz)●寸法／重量:W482×H89×D203mm／8kg●備考:USB入出力端子1系統(Bタイプ)あり。写真はシルバー仕上げ、他にブラック仕上げあり。バランス入出力HOT=2番ピン●問合せ先:㈱フックアップ☎03(6240)1213

安定感のある音像定位。プロ機らしい質感表現

独自の64ビットクロック技術を搭載した、アンテロープのA／D&D／Aコンバーター

黛 健司

高精度クロックジェネレーターやD／Aコンバーターなどで知られるアンテロープ社は、デジタルオーディオを知り尽くしたベテランエンジニアたちによって設立されたプロ用オーディオ機器メーカーだが、ハイエンドアマチュアにも使用可能な機器がマニア層の間で話題になっているという。今回試聴したエクリプス384は、アンテロープ社が誇る64ビットテクノロジーによるクロッキング技術によって384kHz対応のA／D&D／A変換を可能にした興味深い製品。その詳細に触れる紙幅の余裕はないので、今回は高性能D／Aコンバーターとしての能力を検証してみたい。なお、本機の使用にはPC／Macが不可欠で、あらかじめパソコンで入出力切替、ワード／マスタークロックの設定等を行ない5つのユーザープリセットを本体に記憶させれば、フロントパネルからワンタッチで呼び出すことができる。

本機は64ビット高精度クロックにより制御された384kHz対応A／D&D／Aコンバーターを2系統、独立して搭載する。一般的なD／Aコンバーターとして利用できるほか、カスタムUSBインターフェイスも搭載するのでUSB／DACとしても使用可能だ。また、ユニークなデュアルドメイン・クロッキングシステムにより、アナログベースでより自然に聴こえるサンプルレート変換を可能にしているという。

まずアキュフェーズDP900を用いて聴いてみた。いかにもプロ用機器らしい、あくまで入力信号を忠実に再現するというサウンド。どこか乾いた質感表現もプロ機らしいものだろう。基本性能の高いことを聴き手に納得させるような音でもある。空間のアンビエンス成分の再現や、音像定位の正確な再現も秀逸。音像自体も骨格がしっかりしていて、安定感に溢れている。ただ、情緒的な表現は本機には求めるべきではないかもしれない。小澤／サイトウキネンの『ベルリオーズ:幻想交響曲』などを聴くと、音そのものをストレートに表現するという印象が強い。そこを心得て使うべき製品だが、これを魅力と感じる人も多いだろう。ダイアナ・クラールの96kHzサンプリング音源を用いてUSB／DACとして聴いてみると、さすがと唸る高音質だった。